



学校だより

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを ともに生きよう感謝の心で

令和6年11月号

横浜市立谷本小学校

学校HP



「心を一つに」

副校長 松井 康仁

校庭の金木犀がさわやかな香りを届ける季節になりました。あれほど猛威を振るっていた暑さもあつという間に和らぎ、校庭を吹く風に肌寒さも覚えるようになりました。日に日に秋が深まっていることを感じます。

先日行われた運動会では、子どもたちの輝いている姿をたくさん見つけることができました。一生懸命練習してきた演技や競技をやり遂げようとする姿、徒競走やリレー競技で精一杯最後まで走り切ろうとする姿、力強い応援団、息のそろったマーチング演奏を披露した音楽隊をはじめ、運動会を支える係活動に責任をもって取り組む姿。子どもたちの一生懸命取り組もうとする気持ちがたくさん詰まった運動会になりました。ここで、今年の運動会を通して、私が感じたことを2つ紹介させていただきます。

まずは、「6年生の最後の運動会に込めた特別な思い」です。始めた頃からずっとソーラン節の練習の様子を見てきましたが、練習を重ねるごとに声が出るようになり、それに伴って演技に込める6年生の思いを強く感じるできるようになりました。きっと最高学年として、伝統を受け継いでいくことの重みと責任をたくさん感じていたことと思います。そんなプレッシャーを、隣にいる友達やクラス、学年全体ではねのけ、厳しい練習にも食らいついていきました。励まし合い、力を合わせて全力で駆け抜けた結果、本番では見ている人たちを感動させる素晴らしい演技になりました。これまでの取組の中で6年生が感じた達成感は、きっと一人一人の心に刻まれ、これからのさらなる成長の糧になることでしょう。さらには、最高学年の後ろ姿を見て、ほかの学年の子どもたちも育っていくのではないかと思います。

次に、「学年を越えた関わり合い」です。それぞれの学年が運動会練習の最後に、学年同士で演技や競技を見せ合ったり、感想などを交流し合ったりする授業がありました。ほかの学年が何をしているのかじっくり見合う時間がなかったので、興味津々に本番前の姿を見合い、お互いの頑張りを見つけていました。本番でも学年の垣根を越えて、さらには赤組白組の垣根を越えて応援する姿がたくさん見られました。運動会を通して、谷本小学校が一つになっていくのを感じました。閉会式で運動会実行委員長の宮下さんが、「これからも全校が仲良く、心を一つにしていける谷本小学校を創り上げていきましょう。」と心を込めて全校に伝えました。私はこの言葉に目頭が熱くなりました。子どもたちだけでなく、職員をはじめ保護者、地域の皆様、谷本小学校に関わる全ての人たちがこの思いをもつことができれば、本当に素晴らしいと感じました。

運動会をの開催するにあたり、ご来賓の皆様をはじめ、保護者や地域の皆様にご協力、ご来校いただき心より感謝申し上げます。また、PTA 役員・係の方、たぬきクラブの皆様にもお力添えをいただきありがとうございました。皆様の応援のおかげで、今年度も心に残る運動会を開催することができました。これからも子どもたちが心を一つにしていけるよう努めてまいります。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。